むろあつみのどーんと丸ごと館山

市政報告 Vol.5
平成28年7月5日号

連絡先：〒294-0307 館山市波左間 475-1 FAX29-5333（留守電兼用） Email muroatsumi@gmail.com

身近な幸せを感じて

館山市議会議員になって2年目に入りました。

館山市の将来について考えるために、4月以降も精力的にセミナーや視察等に出かけ、参考になる意見を聞いてきました。主な講師に共通した見方として、人口減少時代に入り、これまでとは根本的に発想を転換しなければならない、ということを強調されていました。『成長』や『効率』を追い求める時代は終わり、本当に豊かな生活というのはもっと身近なところにあることに気づくべきだというものです。

自然と折り合いながら、近隣と助け合うという日本人本来の生き方にこそ、心豊かな幸せを見出すことができるのではないでしょうか。私が都会から館山に移ってきた大きな理由もそこにあります。市民の皆さんと一緒に、身の回りの当たり前のように見過ごしている生活に、もっと高い価値を見出していきたい、という気持が益々強くなってきています。それが館山を元気にする早道なのではないかと考えています。

むろあつみ の歩こう会
（野鳥の森ハイキング）

日　時：7月9日（土）
集　合：9:00 安房神社・野鳥の森駐車場
募集人員：30名
参加費：100円（保険代等）
持ち物：飲み物、タオル、帽子など
歩きやすい服装でご参加ください。
コース：野鳥の森散策・森林浴
所要時間：約３時間
問合せ・申込：
・メール muroatsumi@gmail.com
・留守TEL＆FAX **0470-29-5333**

参加ご希望の方は、氏名、住所、電話番号、年齢をお知らせください。
締切日：7月8日13時まで

★館山市及び近隣の自然の魅力を歩きながら実感しようと企画しました

6月議会報告

むろあつみの行政一般質問

◆地産地消の推進に向けた取り組みと課題

〈市の説明・質問により判明したこと〉

地産地消は、地域の産業の活性化に効果的と考え、様々な取り組みを進めている。

①農産物直売所連絡協議会
②地産地消推進店制度（１４１店舗）
③地産地消サポーター制度（７００人）
④地産地消サプライヤー制度（１０３団体）

課題は、流通の仕組み、情報発信、生産力維持（担い手確保）。

これを踏まえ平成26年度に「食のまちづくり計画」を策定した。

★渚の駅の販売品に占める館山産の比率
生鮮品8割、魚介類0、土産類3割

★学校給食に占める館山産の比率
重量ベース（33品目）38・4％
金額ベース18・6％
（米、豚、生卵、ナスは１００％館山産）

〈むろあつみの意見〉

館山に移住して、旬の獲れたての野菜や魚介類が豊富に食べられることを、この上なく贅沢に感じています。自分の家で作る野菜は農薬の心配もなく、あるいは自分で作らなくてもご近所から沢山の自家製食物が届けられます。こうした生活の有難さをもっと認識し、地産地消を徹底することで、地域の活性化にも繋がると信じています。市長から地産地消に「本気だ」との発言を頂きましたので、具体的に今後の取り組みも注視していきます。例えば、学校給食で館山産のものを増やすための方策を検討する等の視点も重要ではないでしょうか。

事例

～地産地消の徹底による経済活性化～

道の駅「萩しーまーと」

平成 13 年に開業した山口県の「萩しーまーと」は、全国 1000 をこえる道の駅のうち、地域活性化や産業振興の成功例として特に優れた６か所の「全国モデル道の駅」に選定された。地元の人達が好んで食べるものや評判になる店に観光客も惹きつけられる、という考えから、コアターゲットを地元住民に設定した（観光客などのビジターは従）。地産地消の合理性を追求することに商機を見出し、商材の地元産比率は約 80%。

むろあつみのどーんと丸ごと館山
市政報告Vol.5　平成28年7月5日号

むろあつみのブログ
むろあつみ　検索

連絡先
〒294-0307 館山市波左間 475-1
FAX29-5333（留守電兼用）
Email muroatsumi@gmail.com

◆青木繁「海の幸」記念館の今後の運営

富崎地区にある小谷家住宅の修復工事が完了し、青木繁「海の幸」記念館として4月29日に一般公開されました。オープンセレモニーには、ノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智（さとし）先生をはじめ約５００名の参加者で盛り上がりました。官民協働でここまでこぎつけられたことに敬意を表したいと思います。

今後の運営について、基本的に「青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会」のボランティアと聞いていますが、館山市のサポートについて確認したところ、「個人所有の施設であり、入館料を徴収していることから、（中略）、現在のところ運営に関して財政的な支援は考えていない」との答弁でした。文化財なので保護に重点を置いているとの発言もありました。

ただ、3千万円近い修復費には、石橋財団、全国画家が支援する「ＮＰＯ法人青木繁海の幸会」と大村智理事長などが大口の寄附をしてくださっているのは、この記念館に単なる一個人住宅に留まらない大きな価値を見出しているからではないでしょうか。市長もセレモニー挨拶で「魅力あるまちづくりを進める上で今後とも大きな存在感を放つ」と言われていましたので、文化財として保護するだけでなくその運営費に関しても、市が関与していくべきと考えており、今後の状況を確認していくつもりです。

◆ふるさと納税の返礼品における館山市返礼品等選定委員会

ふるさと納税を活用して、館山市の活性化を進めて欲しいと思い、これまで12月、3月議会でも質問を繰り返してきました。そこで、今年度に入り「返礼品の公募制度」が導入されたと聞き、非常に喜んでおります。

公募では、37事業所から70件の応募があり、館山らしい海産物やフルーツのほか、ダイビング等館山に来て体験してもらうものもあったそうです。応募された提案を選定するために設置された「館山市ふるさと納税返礼品等選定委員会」は、館山商工会議所、館山市観光協会、館山市漁業協同組合、安房農業協同組合、安房農業協同組合の各団体からの推薦と市の職員の合計12名、うち2名は女性ということです。

ところで、現状では高額納税者の返礼品に館山産でないものがありますが、これを受け取った人はどう思うだろうか？こういう返礼品を掲載していることに何も感じないのだろうか？と非常に残念な思いもあります。

公募はこれからも続いていきますので、民間事業者も智恵を出して館山を盛り上げる工夫をして欲しいと期待しています。

◆東京23区全国連携プロジェクトと幸せリーグについて

館山市が参加している「特別区全国連携プロジェクト」「幸せリーグ」について、館山市が東京と強いパイプを持つきっかけとして存分に活用して欲しいと考え、その内容を確認しました。

担当窓口は企画課ですが、他部署に単に情報発信するに留まらず、プロモーションとの連携を密にし、情報感度を高くしてチャンスを捉えていくことが大切と考えています。市の職員には、色々な形の連携の推進役となれるよう外に出て人脈を広げることも訴えました。

編集後記

今回の議会での質問は、「連携」をキーワードとしました。

先ずは都会との連携。館山にはビジネスのネタとなるような地域資源（食材、自然環境等）が豊富にありますが、これをビジネス化する力や、消費地としての力を都会に求めるという形の連携で、お互い Win-Win の関係を構築できるのではないでしょうか。

二つ目は庁内連携。館山市の全国へのＰＲには、ほぼ全ての部署が関係します。プロモーション担当の部署もありますが、複数部署にまたがる案件ほど、漏れがないようにまとめていくには相当な力が必要です。

最後に官民連携。市長はじめ職員や議員が率先して市民のために働くのは当然のこととして、何でも行政に頼るだけでは問題は解決しません。行政は、民間が動きやすいように制度を整え、民間がこれを利用して創意工夫を凝らした活動を行っていく。こうした役割分担でどれだけ多くの市民が自発的に動いているかが、まちの将来を左右すると考えます。その意味で、いつも多くの方が議会傍聴に来て市政に関心を持ってくださっていることに感謝しています。

その他のお知らせ
- ⊙今年度の常任委員会は「建設経済委員会」で、副委員長を拝命しました。
- ⊙その他の委員会として「地域資源有効活用調査特別委員会」また審議会等は「館山市行財政改革委員会」「館山市総合計画審議会」「館山市コーラル会議」「館山市子ども・子育て会議」 に所属しています。